餌に群がる犬やカラス

村田養豚場では餌の管理がずさんで、屋外、それも公道上で、ミニローダーやフォークリフトを使い、日常的に食品残渣を混ぜ合わせる作業を行なっている。そのため食品残渣が路上に多くこぼれ落ちているのが常であるが、徘徊犬やカラスは、それらこぼれ落ちた食品残渣だけでなく、豚の餌となる、ミニローダーのバケットやドラム缶の中にある食品残渣にも群がっている。上写真の場所はいずれも木津川市あるいは奈良市の里道（公道）である。

村田養豚場は飼い犬と野犬を区別していない

村田養豚場は囲いの外にいる犬に餌を与える際、飼い犬と野犬を区別しておらず、どの犬も近づける場所に餌を置いている。

首輪のない犬もいるように見えるが、特に気にしていない。

村田養豚場は敷地外の数カ所の地面に餌を撒いている

村田養豚場では敷地外の数カ所の地面に餌を撒いている。この餌には犬の他、カラスも群がっている。餌を撒く場所はほぼ決まっているとみられ、餌が定期的に撒かれる場所には常にカラスがたむろしている。また動物が集まってくるため餌撒き場の周囲にはあまり雑草が生えない。

村田養豚場の撒いている餌はイノシシを誘引している

村田養豚場が敷地外で撒いている餌は、犬の餌となっているだけでなく、イノシシを含む野生動物をも引き寄せている。その結果、村田養豚場では常に、イノシシあるいはイノシシの排泄物と接触した犬やカラスが、養豚場内に豚コレラなどの病原体を持ち込みやすい状況となっている。村田養豚場においては、ずさんな衛生管理に加えて、犬の放し飼いが行われていることが、豚コレラ感染リスクを高めていると言える。